菊岡保人の水彩画
～細部に思いをこめて～

Size：530×455㎜（F10）

「黄葉の広場」

この絵は一昨年11月末の東京都板橋区西高島平での銀杏を主体にした憩いの場の風景です。

高島平は今から半世紀前、東京の増加する人口に対処するため、日本住宅公団（現UR都市機構）が開発したマンモス団地で広く知られるようになりました。入居希望者は殺到し、入居後の生活は当時の国内の最先端を走っていたといいます。このマンモス団地開発と併せて整備されたのが多くの緑地であり公園で、50年余を経過した今日、多くの木々は立派に成長し豊かな広場を形成しています。

この土地は江戸時代には徳丸原と呼ばれ鷹場であり入会地でした。ここに西洋式の砲術訓練を高島秋帆が1841年（天保12年）から行なっています。江戸時代が終わると土地は水田などになりますが、時代の流れと共に土地利用の形も変化し、1922年に高島の業績に基づく史跡指定がされ、この地が「高島平」と呼ばれるようになったと言われています。

改めて銀杏が林立する中に入って見ると、枝にある葉っぱと黄葉を過ぎて地面に落ちた葉っぱ達が、空間を黄色の世界にしています。毎年これからも、このような営みが倦むことなく続くことを思うと、ここ高島平をも含めて人々の余りにも急激な行為結果に改めて考えさせられる自分がいました。

この絵で苦労した所は、枝の黄葉の重なりをどれだけ表現できるかでした。また黄色が空のブルーに負けないよう、ブルーをごく薄く着色しましたが、試みが成功しているかどうか心許ない限りです。

菊岡　保人